

らる。秀吉志をく誅せども更にこれ成るるに遂ふに好友兼太夫
 義継を自殺せしむ。是義昭公成りて是義昭公成りては、扶助せし故外小款なる軍もあけき世に秘に
 く此歳も春天正二年の春とありぬ。然れども越前一國の去年朝
 倉滅亡已后、本下後君未希を奉り、主君へ機密を言状せし由、則
 地桂田播磨守若波九郎を守護代として置れり。安きに在りて危
 忘を、驕奢の心突起し、氣驕ふ耽り酒色に泥り、朝倉の一族の
 代まさ、奴僕に像く侮れば、これふよりてその初め、良文よりし事も罵り
 憎む事多し。中に然る府中の城主富田孫六郎長郷、越前へ歸りて
 忠を論せむ。信俊若波の後名之、小務者おられと、桂田のいさか、既客に成るは、
 て斯の如く、不達因中、改事を志するふより、預り不快ふあり、
 と、信長の命り、むし道あり。慥念ふむも下祥を受、然る不近、

信俊が放逸驕奢の奉止、成憤りありたる機会、堪忍ある事、出来
 れり。その不憚いめん、と尋る、富田孫六郎一族、先若猪之助。去年九月
 信長の所、俱きて、長崎に出陣し、邊路の戦ひ、不頼の擡せしむ。
 も恩賞の少、信もあかりし、富田此事、成不快ふあり。遠道、我の恩
 賞、成、まうし奉り、得せん、と、桂田より、訴る。信俊、成、阜へ参候し、
 却て、更しく言状せしむ。富田孫六郎、毛谷猪之助、侮我意、成、此のり
 て、賞を貪る、不忠の軍、へ不領を減し、志する、と、まうせしむ。信長、
 是、成、所、しめし。諸事、三奉行と相候して、執料ら、成、命せり。信俊
 これ、成、領、嘗て、我前へ、歸り、たる、忽ち、眼病、成、悩され、瘰癧、成、
 盲とある。實に、怨し、や、重恩の、主君、成、背き、天罰、成、あぬ。然る、富田
 孫六郎、信俊、成、阜へ、参上して、信長へ、言状せしむ。成、いづく、か、所